

第46回医学教育学会(in 和歌山)に参加して

パネルディスカッション



吉田は、パネルディスカッション：模擬患者養成における地域連携の現状と展望にシンポジストとして参加し、「九州・山口地区医療コミュニケーション教育ワークショップの経緯」を発表し、全体討論を行いました。

運営に携わった学会主催の「シムリンピック 2014」には、全国から12チーム36名の医学科5、6年生が参加し、臨床実習の学習成果を懸命に発揮しました。秋田大学チームの優勝、競技をビデオで振り返りながらの懇親会で盛会の内に幕を閉じました。

菊川は、パネルディスカッション：医学教育研究はじめの一步論文執筆に向けた12Tipsにシンポジストとして参加し、「研究の執筆体験」と題して発表し、フロアと討論を行いました。



一般演題口演

伊東は、口演にて「模擬患者が記述したフィードバックに見る共感、非言語的コミュニケーションと違和感を覚える言葉」を発表しました。

今回の学会は1,100名の参加で、インターナショナルセッションに多くの海外からの参加があり、国際的な雰囲気が強くなった印象を持ちました。また学生主体のパネルディスカッションや学生ポスター発表も熱気があり、若い世代の医学教育の参画を強く感じ、将来の医学教育全体の底上げが期待される学会でした。

